

実家が山の近くにあり、毎日の通学で鍛えられたのか、子どもの頃から長距離

駅伝の魅力を知る

30キロメートル以降の上り坂がキツイことが愛媛マラソンの特徴です。過去6回の挑戦では、後半ペースダウンしていましたが、今回は無理をせず最後まで走れるペースを守りました。

中間点では9位くらいでしたが、後半順位を上げることができ、結果は自己最高の3位でした。地元のみなさんの声援の中で結果を残せたことが、何よりもうれしかったです。

練習の中心は自宅のある坂出市ですが、休日には地元に戻って、浜公園や新池（上分町）の周りを仲間たちと走ったりもします。

“ホーム”で整う

走は得意でした。小学校の頃は地元のサッカーチームに、中学校では野球部に所属。中3の時、特技を買われて出場した県中学駅伝が、私の人生の転機でした。あと一歩というところで優勝は逃しましたが、苦業を共にした仲間と襷をつないでゴールを目指す「駅伝」という競技に、強く惹かれたことを覚えています。そしていつしか、箱根駅伝に出場することが私の目標になっていました。

現在の目標は、毎年1月に開催される「天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会」に出場することです。メンバーに選ばれるために、公認記録会のトラックレースで、1万メートルや5千メートルの記録を狙っています。

そして今年は、9月にスペインで開催される「スカイランニング世界選手権」

目標は全国都道府県駅伝

やはり、地元のコースは落ち着いた気持ちで走れますし、「大会見たよ」とか「応援してるよ」と、知り合いが声を掛けてくれるので、モチベーションにつながっています。これからも地元を大切にしながら競技を続けていきたいと思っています。

ふるさとに恩返しを

私は今年で39歳になります。決して若いランナーではありませんが、この歳になってもまだまだ第一線でやれるというところを見せたいですし、若いランナーたちの刺激になれたらと思います。

四国中央市には、年齢問わず陸上を楽しんでる人がたくさんいます。市民ランナーの私が頑張ることで、ますます四国中央市の陸上が盛り上がれば、大変嬉しく思います。

に日本代表で出場します。競技の枠に縛られず、「どこまで走れるのか」と自分に問いかけながら、これからも挑戦を続けていきたいと思っています。

陸上で

ふるさとに恩返しを

第61回愛媛マラソン 第3位

武村佳尚さん

Yoshihisa Takemura

香川レーシングチーム所属

PROFILE

1985年 妻鳥町生まれ。坂出市在住
四国電力株式会社 勤務

妻鳥小→川之江南中→新居浜東高→國學院大学
高校から陸上を始め、3年次には県高校駅伝で区間賞を、県総体では5000mで優勝した。
大学時代には、箱根駅伝に2度出場。卒業後は実業団チーム「四国電力陸上部」に所属し、ニューイヤー駅伝に3度出場する。
実業団チームの廃部後は市民ランナーとして競技を継続し、「おかやまマラソン2018」で優勝。また、急峻な山岳などを駆け上がる「スカイランニング」にも参戦し、2020年の「四国中央スカイラン」で初優勝。翌年2連覇を果たす。「全日本スカイランニング選手権」では、2022年大会で2位、2023年大会では3位に輝く。



愛媛マラソンの表彰式でカメラに笑顔を向ける武村さん